



池内 さおり
前衆議院議員。刑法改正、ジェンダー平等、LGBTQなど人権問題に取り組む。



池川 友一
東京都議会議員。子どもの権利保障、理不尽な学校校則の改革などに取り組む。



しんぶん赤旗
日本共産党の機関紙「しんぶん赤旗」。1928年創刊。読者数は約100万人。赤旗の事業は、党の財政収入の8割を占める。

これから先の社会をつくる ひとりひとりの“私”

2022年7月15日に創立百周年を迎える日本共産党。経済最優先の新自由主義をおし進める自由民主党が長く政権を担う日本において、左派政党として独自の立ち位置を貫いてきた。コロナ禍が続く2021年、本作は日本共産党の99年目の姿にカメラを向ける。夏の東京都議会議員選挙、秋の衆議院総選挙にのぞむ議員たちの活動をはじめ、入党から60年を超える古参の党员、共産党の機関紙である「しんぶん赤旗」編集部、若い世代の支援者、そして党の周りの人々をカメラは追う。東京オリンピック・パラリンピックが反対世論もあるなかで開催され、その一方繰り返される事業者への休業要請、市民へ自粛を求める風潮に、社会の分断は一層進んでしまった。自己責任、自助努力という言葉が頻りに飛び交うなか、あるべき政治の役割とは何なのか、いまほど問われているときはないであろう。

最古の政党が歩んできた百年の歴史と それを受け継ぐ若き世代を映した 1年間の記録

本作の監督を務めるのは『わたしの自由について～SEALDs 2015～』の西原孝至。2010年代から日本の社会運動を撮り続けてきた西原監督が、本作では日本共産党の姿を通して、いまの日本社会を浮き彫りにしていく。

世界的に、“ジェネレーション・レフト”（左派的な世代）と呼ばれる若い世代が生まれ始めているいま、新しい社会の可能性と、その希望について、本作は世に問いかける。

100nentokibou.com

@ml9films @ml9films



木村 労
会社員として働く傍ら、党员として支持拡大に尽力。定年後は故郷に戻り、百姓を。



吉田 剛
共産党・宮城県仙南地区副委員長、くらしの相談室長を務める。衆院選に3度立候補した経験がある。



黒田 朝陽
コロナ禍で生活が苦しい学生や若い世代に食べ物をお届け、フードバンクの活動に奮闘。



党創立100周年記念マグカップ

「党創立100周年」記念のマグカップを作成しました。

「500個限定」「100周年特別価格1,000円」です。

当日会場でも取り扱いますので、ぜひ記念にお買い求めください。